

科目名	コンピューター	開講時期	2年 後期
担当講師	黒岩 巳恵子	区分	一般
授業の方法	実習	単位数：授業時数	1 30時間

学修内容	ビジネス社会で活用されているアプリケーションソフトの学習を通して、パソコン操作の基礎・基本を修得する
到達目標	Word・Excelを使い、ビジネス文書・レジュメ・POP・売上集計等、卒業後必要と思われる様々な文書の作成法を修得する
実務経験等	

授業計画

1	Windowsの基礎知識
2	Wordの基礎知識
3	Word入門
4	Word入門
5	Wordの活用
6	Wordの活用
7	Wordの活用
8	Wordの活用
9	Wordの活用
10	Excelの基礎知識
11	Excel入門
12	Excel入門
13	Excelの活用
14	Excelの活用
15	後期のまとめ

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="checkbox"/> 筆記試験で評価する
	<input type="radio"/> 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	
使用教材	30時間でマスター Word & Excel 2016 (実教出版)
履修にあたっての注意	

科目名	登録販売者入門	開講時期	1年 前期
担当講師	壘 亮平	区分	実務
授業の方法	講義	単位数：授業時数	1 15時間

学修内容	登録販売者の基礎知識やセルフメディケーションについて、また、ドラッグストア業界の基礎知識や販売戦略などについて学習する。
到達目標	登録販売者の制度や役割についてしっかり説明できるよう理解し、セルフメディケーションやドラッグストア業界についての知識も深める。
実務経験等	登録販売者として、ドラッグストアにて接客に従事

授業計画

1	授業の進め方や自己紹介含めたオリエンテーション、登録販売者とは
2	登録販売者制度と役割について 管理者要件とは
3	登録販売者として知っておくべき疾患 COPD（慢性閉塞性肺疾患）
4	セルフメディケーションとは セルフメディケーション税制
5	ドラッグストア業界について ドラッグストアの役割など
6	進化してきたドラッグストアの実際 動画学習
7	PB商品（プライベートブランド）とNB商品（ナショナルブランド）
8	ドラッグストアでの販売戦略 食品 日用品
9	ドラッグストアでの販売戦略 医薬品 化粧品 健康食品
10	ドラッグストア業界の過去、現在、未来について 動画学習含む
11	ドラッグストアでの接客コミュニケーション 挨拶 お客様との距離感
12	ドラッグストアでの接客コミュニケーション 接客と販売
13	競合店調査について グループワーク①
14	競合店調査について グループワーク②
15	競合店調査について グループワーク③

評価方法 (どちらかに ○をつける)	筆記試験で評価する
	○ 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	ドラッグストア競合店調査（店舗調査）※夏季休み中
使用教材	配布資料
履修にあたっての注意	

科目名	登録販売者入門	開講時期	1年 後期
担当講師	壘 亮平	区分	実務
授業の方法	講義	単位数：授業時数	1 15時間

学修内容	ドラッグストア各社の違いや、頭痛や疲れに対する対応の仕方について。また、パワーポイントの初歩的な使い方やプレゼンの仕方なども併せて学習する。
到達目標	・まわりのドラッグストアの強みや特徴を理解する ・身近な不調として頭痛や疲れへの初期対応ができるようにする
実務経験等	登録販売者として、ドラッグストアにて接客に従事

授業計画

1	競合店調査について グループワーク パワーポイント作成①
2	競合店調査について グループワーク パワーポイント作成②
3	競合店調査について グループワーク パワーポイント作成③
4	競合店調査について グループワーク パワーポイント作成④
5	競合店調査について プレゼンテーション①
6	競合店調査について プレゼンテーション②
7	競合店調査について 評価と改善点
8	頭痛について 緊張型頭痛、片頭痛、群発頭痛など
9	様々な頭痛への対応 解熱鎮痛薬の基礎知識
10	解熱鎮痛の主成分や補助成分について
11	栄養ドリンクについて 医薬品、医薬部外品、清涼飲料水
12	カフェインについて 作用と副作用
13	エナジードリンクについて カフェインの過剰摂取の危険性について
14	栄養ドリンクに含まれるビタミンについて ビタミン主製剤について
15	様々な頭痛、栄養ドリンクについて 理解度チェック 復習

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="checkbox"/> 筆記試験で評価する
	<input type="radio"/> 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	
使用教材	登録販売者テキスト、配布資料
履修にあたっての注意	

科目名	登録販売者の責務	開講時期	2年 前期
担当講師	疊 亮平	区分	実務
授業の方法	講義	単位数：授業時数	1 15時間

学修内容	登録販売者試験には出てこないが、医療従事者として知っておくべき内容。子ども、高齢者、女性特有なものなど。また、緊急時の対応方法や東洋医学など。
到達目標	登録販売者として、子供や高齢者、女性特有な不調も考慮しながら対応ができるようにする。また、様々な相談や緊急時などの対応ができるよう自信をつける。
実務経験等	登録販売者として、ドラッグストアにて接客に従事

授業計画

1	オリエンテーション 登録販売者とセルフメディケーション
2	乗り物酔い予防薬 配合成分と売り分け 注意点
3	妊娠・出産・育児 妊娠検査薬、妊娠中の栄養や病気
4	妊娠時の生理機能の変化と薬効 妊婦・授乳婦に注意が必要な医薬品
5	補完・代替医療 西洋医学と東洋医学 アーユルヴェーダ
6	アロマセラピー・ハーブ療法・エステティック・カラーセラピー
7	遠赤外線療法・気功・クレイセラピー・カイロプラクティック・伝承療法
8	介護 介護の基礎知識、高齢者の特徴、認知症、褥瘡
9	リハビリテーション 理学・作業・言語療法、脳卒中、関節リウマチ
10	高齢者の生理機能と薬効 小児の生理機能と薬効
11	応急処置 AED使用の手順、心肺蘇生法の基本、救急車の呼び方、トリアージ
12	応急処置 止血法、衛生用品、外傷の種類と応急処置、吐血と喀血
13	毒薬、劇薬について 麻薬、覚せい剤について
14	こころに関係する病気 心身症、うつ病、摂食障害、不眠症
15	こころに関係する病気 外傷後ストレス障害（PTSD）、依存症

評価方法 (どちらかに ○をつける)		筆記試験で評価する
	○	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習		
使用教材	登録販売者テキスト 配布資料	
履修にあたっての注意		

科目名	登録販売者の責務	開講時期	2年 後期
担当講師	壘 亮平	区分	実務
授業の方法	講義	単位数：授業時数	1 15時間

学修内容	登録販売者試験合格後の登録方法と外部研修について。社会人になる前の予備知識。セルフメディケーションに関する情報提供。
到達目標	登録販売者として、自信をもって社会人になれるようにする。また、セルフメディケーション推進にしっかり貢献できるよう自分の情報量を増やす。
実務経験等	登録販売者として、ドラッグストアにて接客に従事

授業計画

1	登録販売者試験合格後から販売従事登録証の発行までの流れ
2	登録販売者研修について 外部研修の受講義務と必要性
3	アルバイトと社員の違い 医薬品担当と化粧品担当について
4	登録販売者としての責任 医薬品副作用救済制度
5	クレーム対応について クレームとクレマーへの対応方法
6	セルフメディケーションに関するプレゼン パワーポイント作成①
7	セルフメディケーションに関するプレゼン パワーポイント作成②
8	セルフメディケーションに関するプレゼン パワーポイント作成③
9	セルフメディケーションに関するプレゼン パワーポイント作成④
10	セルフメディケーションに関するプレゼン パワーポイント作成⑤
11	セルフメディケーションに関するプレゼン 発表①
12	セルフメディケーションに関するプレゼン 発表②
13	セルフメディケーションに関するプレゼン 発表③
14	セルフメディケーションに関するプレゼン 評価と感想
15	セルフメディケーション推進と今後の目標

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="checkbox"/>	筆記試験で評価する
	<input type="checkbox"/>	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習		
使用教材	登録販売者テキスト	配布資料
履修にあたっての注意		

科目名	人材育成論	開講時期	1年 後期
担当講師	作能 弘光	区分	一般
授業の方法	講義	単位数：授業時数	1 15時間

学修内容	企業で働く上で業務を円滑に進めていくためにはいわゆる「常識」や「教養」を必要とされる場面が数多くあります。特に接客業においてはお客様との会話をスムーズに行うためにも常識的な知識が要求されることになります。また企業では採用試験の際に一般教養の試験を課し、面接に加え選抜や可否の参考にしてしています。授業では国語・歴史・地理・政経・数学・英語・時事問題を中心に学びます。
到達目標	一般的な常識や一般教養の基礎を習得することを目標とします。
実務経験等	

授業計画

1	オリエンテーション（授業の目的、内容、進め方、科目の必要性）
2	一般教養（1） 国語①、地理①
3	一般教養（2） 国語②、数学①
4	一般教養（3） 国語③、歴史①
5	一般教養（4） 英語①、数学②
6	一般教養（5） 国語④、数学③
7	一般教養（6） 地理②、時事問題
8	一般教養（7） 歴史②、英語②
9	一般教養（8） 数学④、数学⑤
10	一般教養（9） 国語⑤、数学⑥
11	一般教養（10） 国語⑥、英語③
12	一般教養（11） 数学⑦、数学⑧
13	一般教養（12） 政治経済①、政治経済②
14	一般教養（13） 国語⑦、時事問題
15	一般教養（14） 数的推理①

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="checkbox"/> 筆記試験で評価する
	<input type="radio"/> 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	復習は特に大事ですので注力して下さい。また時事問題には監視を持ち特に業界との関連性を意識しておいて下さい。
使用教材	就職筆記試験問題集（株式会社ウィネット編）。時事問題については新聞等を参考資料として使用。
履修にあたっての注意	授業を欠席した際には必ずその授業で行われた問題を解き、指導を仰ぐようにして下さい。

科目名	人材育成論	開講時期	2年 前期
担当講師	作能 弘光	区分	一般
授業の方法	講義	単位数：授業時数	1 15時間

学修内容	企業で働く上で業務を円滑に進めていくためにはいわゆる「常識」や「教養」を必要とされる場面が数多くあります。特に接客業においてはお客様との会話をスムーズに行うためにも常識的な知識が要求されることになります。また企業では採用試験の際に一般教養の試験を課し、面接に加え選抜や可否の参考にしていきます。授業では国語・歴史・地理・政経・数学・英語・時事問題を中心に学びます。
到達目標	一般的な常識や一般教養の基礎を習得することを目標とします。
実務経験等	

授業計画

1	一般教養（15） 国語⑧、地理③
2	一般教養（16） 国語⑨、数学⑨
3	一般教養（17） 国語⑩、歴史③
4	一般教養（18） 英語④、数学⑩
5	一般教養（19） 文章表現
6	一般教養（20） 数的推理②
7	一般教養（21） 数的推理③
8	一般教養（22） 政治経済③、政治経済④
9	一般教養（23） 歴史④、地理④
10	一般教養（24） 英語⑤、英語⑥
11	一般教養（25） 現代社会
12	一般教養（26） 時事問題
13	一般教養（27） 数学⑪、数学⑫
14	一般教養（28） 判断推理①
15	一般教養（29） 判断推理②

評価方法 (どちらかに ○をつける)	筆記試験で評価する
	<input type="radio"/> 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	復習は特に大事ですので注力して下さい。また時事問題には監視を持ち特に業界との関連性を意識しておいて下さい。
使用教材	就職筆記試験問題集（株式会社ウィネット編）。時事問題については新聞等を参考資料として使用。
履修にあたっての注意	授業を欠席した際には必ずその授業で行われた問題を解き、指導を仰ぐようにして下さい。

科目名	ビジネスマナー	開講時期	2年 後期
担当講師	緑川 恵	区分	実務
授業の方法	講義	単位数：授業時数	2 30時間

学修内容	ビジネスマナーに対する理解を深めるとともに、社会における振る舞いを念頭において、より実践的なスキルを身につけてもらいます。
到達目標	社会人1年目として、改めて入社後の教育を受ける必要がない程度に考え方や振る舞いができるようになることを目標とします。
実務経験等	法律事務所にて、秘書として従事、来客対応、電話対応を始め秘書業務全般を担当

授業計画

1	ビジネスマナーの基本、お辞儀、挨拶について
2	働く意識、コミュニケーション、コンプライアンス、CS
3	身だしなみ、敬語（尊敬語、謙譲語、丁寧語）
4	敬語の使い分け、二重敬語、誤用
5	電話対応①（対応用語、受け方、かけ方）
6	電話対応②（ロールプレイング）
7	電話対応③（伝言メモの作成）
8	来客対応（対応用語、案内、茶菓の接待）
9	名刺交換のマナー、紹介のマナー
10	ビジネス文書① 社内文書、社外文書
11	ビジネス文書② 社外文書の構成（前文、主文、末文）、社交文
12	慶事のマナー（結婚式のマナー、賀寿、正礼装）
13	贈答のマナー、弔事のマナー
14	お見舞いのマナー、食事のマナー
15	後期授業のまとめ

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="checkbox"/> 筆記試験で評価する
	<input type="radio"/> 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	社会人にとってコミュニケーション能力は重要です。学校、アルバイト先などにおいてもコミュニケーション能力の向上に努力してください。また、普段から新聞、ニュースにも目を向けてください。
使用教材	ビジネスマナー基本テキスト（日本能率協会マネジメントセンター）
履修にあたっての注意	グループワークやロールプレイングには積極的に取り組んでください。テキストの理解に加え実践することでスキルが身につけていきます。

科目名	販売士	開講時期	2年 前期
担当講師	武井 宣之	区分	一般
授業の方法	講義	単位数：授業時数	2 30時間

学修内容	小売店舗を運営する為の基本的な仕組み、販売員としての基礎的な知識を身につけて、販売業務に活かすことを目指します。
到達目標	小売業の様々な類型とマーチャンドライジングの基礎やストアオペレーションの基礎を学び、販売に役立てる。
実務経験等	

授業計画

1	小売業の類型① SM・SuC・HC・Dgs・CVS
2	小売業の類型② チェーンストア、中小小売業の役割、商店街、ショッピングセンター
3	マーチャンドライジング① 商品とは、分類と本体要素、マーチャンドライジングの基本
4	マーチャンドライジング② CVSのマーチャンドライジングシステム、商品計画の基礎
5	マーチャンドライジング③ 商品構成、棚割とディスプレイ、仕入計画
6	マーチャンドライジング④ 発注・物量の基礎、在庫管理・POSシステム
7	マーチャンドライジング⑤ 価格政策、値入と粗利・売価決定計算方法
8	マーチャンドライジング⑥ まとめ
9	ストアオペレーション① 利益について、発注・荷受け検収補充の基礎
10	ストアオペレーション② 売場について、ミーティングの基礎・包装について
11	ストアオペレーション③ 購買につなげるためのディスプレイ及びパターン
12	ストアオペレーション④ ファッション衣類のディスプレイ、ワークスケジューリング・パートアルバイトの活用
13	ストアオペレーション⑤ 顧客心理について及び接客技術・レジ業務と推奨販売
14	ストアオペレーション⑥ まとめ
15	マーチャンドライジングおよびストアオペレーションのまとめ

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="radio"/>	筆記試験で評価する
	<input type="radio"/>	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	販売実習等での経験及び様々な販売形態の店舗見学	
使用教材	リテールマーケティング テキスト&問題集	
履修にあたっての注意		

科目名	販売士	開講時期	2年 後期
担当講師	武井 宣之	区分	一般
授業の方法	講義	単位数：授業時数	2 30時間

学修内容	小売店舗を運営する為の基本的な仕組み、販売員としての基礎的な知識を身につけて、販売業務に活かすことを目指します。
到達目標	マーケティングの基礎と販売・経営管理の基本を学び合理的な店舗運営の基礎を身につける。
実務経験等	

授業計画

1	マーケティング① 小売業のマーケティング、マーケティングの4P及びリサーチ
2	マーケティング② マーケティングミックス、顧客満足経営、顧客管理の基礎
3	マーケティング③ FSPとは、FSPの狙いと運用、顧客データの活用
4	マーケティング④ リージョナルプロモーションの基本・方法
5	マーケティング⑤ POP・プライスカードの特徴
6	マーケティング⑥ 商圈について、立地・競争店調査の考え方
7	マーケティング⑦ 売場づくりについて、まとめ
8	販売経営管理① 販売員の役割、接客マナー、販売活動に関する法規
9	販売経営管理② 商品に関する法規、個人情報保護法、環境問題と消費生活
10	販売経営管理③ 販売事務の基本、計数管理の基本、決算について
11	販売経営管理④ 利益計算の方法、人間関係の基本
12	販売経営管理⑤ コミュニケーションについて、金券と代金支払いについて
13	販売経営管理⑥ 万引き対策、食の安全と安心、店舗施設の管理
14	販売経営管理⑦ まとめ
15	リテールマーケティングのまとめ

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="radio"/>	筆記試験で評価する
	<input type="radio"/>	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	販売実習等での経験及び様々な販売形態の店舗見学	
使用教材	リテールマーケティング テキスト&問題集	
履修にあたっての注意		

科目名	ハーブと健康	開講時期	2年 前期
担当講師	飴谷 有希子	区分	一般
授業の方法	講義	単位数：授業時数	2 30時間

学修内容	生活の中で手に入りやすい20種類のハーブを中心に、ハーブの安全性、有用性、使い方などを学ぶ。また、精油の基礎知識と使用法について学ぶ。
到達目標	①ハーブや精油を安全に使用するための基礎知識を説明できる。 ②ハーブやアロマテラピーを生活の中で活用することができる。
実務経験等	

授業計画

1	ハーブ基礎知識（安全に使用するため）、ティーの淹れ方、ハーブ各論（マロウブルー）
2	ハーブ活用法（コーディアル）、ハーブ各論（エキナセア、エルダーフラワー）
3	ハーブ活用法（チンキ剤）、ハーブ各論（カレンデュラ、ハイビスカス）
4	ハーブ活用法（スチーム）、ハーブ各論（ジャーマンカモミール、ローズヒップ）
5	ハーブ活用法（ハーブパウダー）、ハーブ各論（セージ、ラズベリーリーフ）
6	ハーブ活用法（化粧水）、ハーブ各論（セントジョーンズワート、リンデン、マテ）
7	アロマテラピー基礎知識（安全に使用するため）、ハーブ各論（ダンディライオン）
8	アロマテラピー基礎知識（柑橘系精油）、ハーブ各論（ネトル、ローズ）
9	アロマテラピー活用法（スプレー、芳香浴）、ハーブ各論（パッションフラワー、ミント）
10	ハーブ活用法（部分浴）、ハーブ各論（マルベリー、ラベンダー）
11	ハーブ活用法（ブレンド）、ハーブ各論（ローズマリー）
12	ハーブ活用法（料理）、ハーブ各論（レモンバーベナ、レモンバーム）
13	ハーブや精油を安全に使用するためには
14	ハーブ活用法（浸出油）、ブレンドティー
15	ハーブ活用法（軟膏）、ソフトハーブティー

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="checkbox"/> 筆記試験で評価する
	<input type="radio"/> 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	
使用教材	基礎からよくわかるメディカルハーブLESSON 監修 佐々木薫 河出書房新社
履修にあたっての注意	アレルギーや、皮膚疾患のある学生は申し出ること

科目名	体育	開講時期	2年 前期
担当講師	松本 晴美	区分	実務
授業の方法	実技	単位数：授業時数	1 30時間

学修内容	グループ別による選択種目の実施（バレーボール、サッカー、バスケ、テニス等）
到達目標	体力向上はもとより、スポーツを通じて円滑なコミュニケーションをはかる
実務経験等	スポーツクラブ勤務後、カイロプラクティックジムを開業運動指導やカウンセリング業務に従事

授業計画

1	グループ別による選択種目の実施
2	〃 ※準備体操・整理体操は全員で行わせる。
3	〃 ※各種目の準備・片付けは各グループに責任を持って行わせる。
4	〃 ※選択種目・ ・ ①バスケットボール ②テニス
5	〃 ③ウォーキング・ランニング ④サッカー
6	〃 ⑤ソフトボール ⑥バレーボール
7	〃 ⑦バドミントン ⑧その他
8	〃 ※人数により実施しない種目もある。
9	〃
10	〃
11	〃
12	〃
13	〃
14	〃
15	選択種目の反省と評価（自己評価・相互評価）

評価方法 (どちらかに ○をつける)		筆記試験で評価する
	○	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習		
使用教材		
履修にあたっての注意		

科目名	保健体育	開講時期	1年 前期
担当講師	松本 晴美	区分	実務
授業の方法	講義	単位数：授業時数	1 15時間

学修内容	「講義」 健康づくりのための運動の基礎理論 「実技」 グループ別による選択種目の実施（バレーボール、サッカー、バスケットボール、テニス等）
到達目標	健康な日常生活をおくるための運動の重要性を理解し、実技授業で生涯スポーツへの関心と親しみを深める
実務経験等	スポーツクラブ勤務後、カイロプラクティックジムを開業運動指導やカウンセリング業務に従事

授業計画

1	実技実施のためのオリエンテーション（授業の説明、注意事項、アンケート）
2	「実技」グループ別による選択種目の実施
3	〃 ※準備体操・整理体操は全員で行わせる。
4	〃 ※各種目の準備・片付けは書くグループに責任を持って行わせる。
5	〃 ※選択種目・ ・ ①バスケットボール ②テニス
6	〃 ③ウォーキング・ランニング ④サッカー
7	〃 ⑤ソフトボール ⑥バレーボール
8	〃 ⑦バドミントン ⑧その他
9	〃 ※人数により実施しない種目もある。
10	「講義」 健康づくりのための身体活動基準
11	〃 生活習慣病と身体活動
12	〃 生活習慣病に効果的な運動（ウォーキング）
13	〃 （筋肉強化運動）
14	〃 ストレッチとセルフマッサージ
15	〃 まとめ

評価方法 (どちらかに ○をつける)	筆記試験で評価する
	○ 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	
使用教材	
履修にあたっての注意	

科目名	メンタルヘルス	開講時期	2年 後期
担当講師	壘 亮平	区分	一般
授業の方法	講義	単位数：授業時数	2 30時間

学修内容	ストレスとメンタルヘルスの基本、心のセルフケアに関する内容を主とし、社会生活において自分自身のストレスへの対処方から部下への対応についてまで学習する。
到達目標	メンタルヘルス不調者が多い現代社会において、自分自身の心のケアと部下への心のケアもできる人材として社会生活を送れるようにする。
実務経験等	

授業計画

1	テキストの見方、使い方。メンタルヘルスマネジメント検定の概要。
2	メンタルヘルスケアの重要性、労働安全衛生法と安全配慮義務。
3	過重労働による健康被害、ストレスチェック制度、自殺対策基本法等。
4	ライフサイクルとストレス、メンタルヘルス不調とうつ。
5	うつ以外のメンタルヘルス不調、心身症と発達障害。
6	メンタルヘルス不調の現れ方と対処、心の健康問題に対する正しい態度。
7	職場環境等の評価と改善。ストレスとなる職場環境への対策や改善への課題。
8	従業員のメンタルヘルスケアと管理監督者自身のセルフケア。
9	セルフケア、ストレスへの気づき方と対処方、カウンセリングの実際。
10	部下からの相談や対応。危機管理とリスクマネジメント。
11	社内外資源との連携とプライバシーへの配慮。
12	職場復帰支援の方法、プライバシー保護と支援の注意点。
13	理解度チェック 模擬問題 解答・解説
14	メンタルヘルスマネジメント検定の過去問 解答・解説
15	今までの学習を踏まえ、ストレス発散法などのプレゼン グループワーク

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="radio"/>	筆記試験で評価する
	<input type="radio"/>	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習		
使用教材		メンタルヘルスマネジメント検定2種3種テキスト&問題集 配布資料
履修にあたっての注意		

科目名	スキンケア	開講時期	2年 後期
担当講師	齋藤 絵美	区分	一般
授業の方法	講義	単位数：授業時数	2 30時間

学修内容	皮膚の構造を理解し、健康的な肌を維持するための知識を学ぶ。
到達目標	正しいスキンケアの方法を伝え、状態の応じたアドバイスができるようにする。
実務経験等	

授業計画

1	皮膚の構造（表皮・真皮・皮下組織）
2	皮膚の役割と機能（表皮・真皮・皮下組織）
3	皮膚の機能（ターンオーバー）
4	肌トラブル（外因的要因）
5	肌トラブル（内因的要因）
6	肌トラブル対処法・手入れ
7	スキンケア化粧品の種類
8	スキンケア化粧品の用途・特性
9	化粧品の原料と基礎知識（基材）
10	化粧品の原料と基礎知識（添加物）
11	化粧品の原料と基礎知識（訴求成分）
12	ボディケア化粧品
13	毛髪・頭皮の構造・ヘアケア化粧品
14	化粧品に関するルール
15	化粧品に関するルール

評価方法 (どちらかに ○をつける)		筆記試験で評価する
	○	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	日常生活においても、スキンケアに関する情報に関心を持つ。	
使用教材	日本化粧品検定2.3級対策テキスト	
履修にあたっての注意	欠席をした場合は、講義内容の確認し指導を仰ぐ。	

科目名	POPコピーライター	開講時期	2年 後期
担当講師	善養寺 良子	区分	実務
授業の方法	演習	単位数：授業時数	2 30時間

学修内容	広告に関する基礎知識を学び、POPの目的とその役割を理解する。また実習を通して、販売促進効果の高いPOP作成技術の習得に挑む。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 広告に対する関心度を高める。 ● 各々の個性を生かしたPOP作成技術を身につける。 ● 社会のあらゆる場面で利用できる情報整理スキルを身につける。
実務経験等	出版社にて本の企画・編集等に従事、その後JICAに所属し海外の美術館等で現地スタッフに指導

授業計画

1	自己紹介／POP広告とは（概要・目的・種類）／実習1『POP広告の比較-1-印象を考えてみよう』／アンケート
2	POP広告制作の手順／実習2『POP広告の比較-2-ビフォーアフターを見てみよう』
3	情報整理演習／実習3『整理した情報からキャッチコピーを作ろう』
4	フォント・レタリング演習（紙・ペン・書体の種類）／実習4『いろいろなフォントを書く・キャッチコピーを書いてみる』
5	色彩・イラストレーション演習／実習5『春夏秋冬を色分けしてみよう』 『凶形を描いてみよう』
6	イラストレーション演習／実習6『人物イラストを描いてみよう』
7	レイアウト演習（レイアウト5ルール）／実習7『見本と同じPOP広告を作ってみよう-1-』
8	レイアウト演習／実習8『見本と同じPOP広告を作ってみよう-2-』
9	POP広告演習／実習9『実際の商品でPOP広告を作ってみよう-1-』（指定課題）
10	POP広告演習／実習10『実際の商品でPOP広告を作ってみよう-2-』（指定課題）
11	POP広告演習／実習11『実際の商品でPOP広告を作ってみよう-3-』（指定課題）
12	POP広告演習／実習12『実際の商品でPOP広告を作ってみよう-4-』（指定課題）
13	POP広告演習／実習13『実際の商品でPOP広告を作ってみよう-5-』（指定課題）
14	POP広告演習／実習14『実際の商品でPOP広告を作ってみよう-6-』（自由課題）
15	POP広告演習／実習15『実際の商品でPOP広告を作ってみよう-7-』（自由課題）

評価方法 (どちらかに ○をつける)	筆記試験で評価する
	○ 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	個々でドラッグストアへ行った際にPOP広告をよく観察してみる（強制ではない）
使用教材	筆記用具（鉛筆またはシャープペンシル・消しゴム・定規・細黒ペン・修正液）／マーカー5色以上／色画用紙5色以上／新聞紙
履修にあたっての注意	

科目名	販売実務演習	開講時期	1年 前期
担当講師	齋藤 絵美	区分	実務
授業の方法	講義	単位数：授業時数	2 30時間

学修内容	健康やセルフケアに関わる多様な商品についてグループディスカッション・発表をし理解をする。校外実務実習にむけ、ドラッグストア業界の専門性を知る。
到達目標	情報の処理を行い、商品の用途・機能を正しく理解する。グループワークで自らの役割を理解し、協調性・コミュニケーション能力を養う。
実務経験等	登録販売者として、ドラッグストアで販売に従事、後輩の販売指導などを経験

授業計画

1	オリエンテーション（グループ学習について・発表の仕方・目的）
2	特定保健用食品（緑茶/特定保健用食品の緑茶）
3	病者用食品（ポカリスエット/OS-1）
4	医薬部外品（のど飴/殺菌剤配合のど飴）
5	栄養補助食品（カロリーメイト/メイバランス）
6	低GI食品（チョコレート/高カカオチョコレート）
7	特定保健用食品（ガム/マルチトース配合ガム：ポスカ）
8	高度医療機器（ドライヒーリング/モイストヒーリング）
9	機能性表示食品（えんきん/ロートV5粒）
10	いわゆる健康食品：ビタミン剤（グルコサミン/コンドロイチン）
11	医薬品・医薬部外品：歯磨き粉（薬用/第3類医薬品）
12	医薬品・食品：カフェインドリンク
13	機能性表示食品：ドリンク剤（コラーゲン/セラミド）
14	実技試験
15	校外実務実習の事前指導

評価方法 (どちらかに ○をつける)		筆記試験で評価する
	○	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	日常生活においても、健康に関する情報に関心を持つ。	
使用教材	プリント	
履修にあたっての注意	グループ学習では、協調性のある言動を心掛ける。	

科目名	接客英語	開講時期	1年 前期
担当講師	萱森 公子	区分	一般
授業の方法	講義	単位数：授業時数	1 15時間

学修内容	この授業では基本的な接客業のフレーズや薬の名前や体調等を英語で理解できるよう学びます
到達目標	薬局で海外からのお客様とコミュニケーションが取れるようリスニングやスピーキングができる力を身に付けることを目標とします
実務経験等	

授業計画

1	来店したお客様を迎える
2	よく言うひとこと
3	聞き取れない、わからない
4	レジに案内する
5	金額を伝える、支払い方法
6	お金を受け取る、渡す、クレジットカード
7	ポイントカード、スタンプカード、レシート、領収書を発行する
8	電話対応をする
9	お客様を見送る
10	忘れ物の対応をする
11	営業日、営業時間を伝える
12	薬の種類
13	ドラッグストア、薬局
14	病院、クリニック
15	とっさの対応

評価方法 (どちらかに ○をつける)		筆記試験で評価する
	○	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	なし	
使用教材	みんなの接客英語：アルク	
履修にあたっての注意	なし	

科目名	接客中国語	開講時期	2年 後期
担当講師	張 渭涛	区分	一般
授業の方法	講義	単位数：授業時数	1 15時間

学修内容	この講義は医薬品販売と薬剤師調剤における「医薬接客中国語」を日本語で教授して習う授業である。医薬関係の現場ニーズに基づきコミュニケーション情景の形にして中国語発音と文法の概説を始め、薬局と病院での主な実用表現を集中的に学び習う。
到達目標	十五回の内に、中国語の発音を覚え基本文法を理解する上に、薬局と病院でのコミュニケーションにおける日常表現と常用会話を身に着けることを目指す。
実務経験等	

授業計画

1	中国語の発音Ⅰ：特徴、声調と母音、医薬表現で練習
2	中国語の発音Ⅱ：子音と鼻母音、医薬表現で練習
3	中国語の発音Ⅲ：音節と発音ルール、医薬表現で練習
4	中国語の基本文法：簡体字、品詞と語順、句型、主要文法、医薬表現で練習
5	薬局用中国語表現1：受付対応と説明文書カバー、効果・諸注意；応用会話1
6	薬局用中国語表現2：飲み薬と水薬、うがい薬；応用会話2
7	薬局用中国語表現3：貼り薬と塗り薬、スプレー薬；応用会話3
8	薬局用中国語表現4：坐薬と点眼点耳点鼻、頓服薬；応用会話4
9	薬局用中国語表現5：復習と小テスト；応用会話5
10	病院用中国語表現1：受付と外来、会計；応用会話6
11	病院用中国語表現2：薬局と入院・朝の回診、人体の名称；応用会話7
12	病院用中国語表現3：チェックリストと数の数え方、例文；応用会話8
13	病院用中国語表現4：時間とその他；応用会話9
14	病院用中国語表現5：復習と小テスト；応用会話10
15	期末試験：試験と講評、総復習

評価方法 (どちらかに ○をつける)	筆記試験で評価する
	<input type="radio"/> 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	中国語版ラインのWeChat（ウィーチャット）でオンライン質問と回答
使用教材	授業中配布。
履修にあたっての注意	15回集中的な実用語学の講義のため、諦めずに毎日繰り返して覚える工夫が必要である。

科目名	医薬品概論	開講時期	1年 前期
担当講師	磯野 淳一	区分	実務
授業の方法	講義	単位数：授業時数	2 30時間

学修内容	①医薬品、副作用、情報の入手と提供の概要 ②医薬品の効果、副作用に影響を与える要因 ③適切な医薬品選択と受診勧奨の概要 ④薬害の歴史
到達目標	①医薬品の本質、効き目や安全性に影響を与える要因等について理解する ②購入者等から医薬品を使用しても症状が改善しないなどの相談があった場合には、医療機関の受診を勧奨するなど、適切な助言ができる ③薬害の歴史を理解し、医薬品の本質を踏まえた適切な販売等に努めることが出来る
実務経験等	薬剤師として、総合病院に勤務

授業計画

1	適切な情報提供を担うために 登録販売者とは
2	I 医薬品概論 1) 医薬品の本質 クスリとは 薬物の体内動態（薬動力学）を学ぶ 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律 2) 医薬品のリスク評価 3) 健康食品 セルフメディケーション
3	II 医薬品の効き目や安全性に影響を与える因子 1) 副作用 2) 医薬品の不適正な使用
4	3) 他の医薬品や食品との相互作用、飲み合わせ 抗ヒスタミン薬、アルコールと薬の関係 4) 小児、高齢者等への配慮 a)小児 b) 高齢者
5	4) 小児、高齢者等への配慮 a)小児 b) 高齢者 c)妊婦又は妊娠していると思われる女性 d)母乳を与える女性（授乳婦） e)医療機関で治療を受けている人等
6	5) プラセボ効果 6) 医薬品の品質 III 適切な医薬品選択と受診勧奨 1) 一般用医薬品で対処可能な症状等の範囲 セルフメディケーション
7	2) 販売時のコミュニケーション IV薬害の歴史 1) 医薬品による副作用等に対する基本的考え方 2) 医薬品による副作用等にかかる主な訴訟 a)サリドマイド訴訟
8	2) 医薬品による副作用等にかかる主な訴訟 b)スモン訴訟 c)HIV訴訟 d)CJD訴訟
9	適切な情報提供を担うために 登録販売者とは 登録販売者と薬剤師の違い I 医薬品概論 1) 医薬品の本質 I 医薬品概論 1) 医薬品の本質 処方薬と市販薬の違い
10	OTC医薬品とは スイッチOTC医薬品とは セルフメディケーション 2) 医薬品のリスク評価 セルフメディケーション この薬、たくさん飲めば
11	II 医薬品の効き目や安全性に影響を与える因子 1) 副作用 2) 医薬品の不適正な使用 3) 他の医薬品や食品との相互作用、飲み合わせ アルコールと薬の関係
12	II 医薬品の効き目や安全性に影響を与える因子 4) 小児、高齢者等への配慮 a)小児 b) 高齢者 c)妊婦又は妊娠していると思われる女性 妊婦が避けるべき成分 d)母乳を与える女性（授乳婦）
13	5) プラセボ効果 6) 医薬品の品質 III 適切な医薬品選択と受診勧奨 1) 一般用医薬品で対処可能な症状等の範囲 セルフメディケーション
14	2) 販売時のコミュニケーション IV薬害の歴史 1) 医薬品による副作用等に対する基本的考え方 2) 医薬品による副作用等にかかる主な訴訟 a)サリドマイド訴訟
15	販売時のコミュニケーション 第1章 医薬品概論 の振り返り

評価方法 (どちらかに ○をつける)		筆記試験で評価する
	○	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習		
使用教材	登録販売者試験 受験対策 共通テキスト [改訂版] 上巻	
履修にあたっての注意		

科目名	人体学	開講時期	1年 前期
担当講師	野村 恵子	区分	実務
授業の方法	講義	単位数：授業時数	2 30時間

学修内容	脳や神経系、皮膚・骨・関節・筋肉などの運動器官、目・鼻・耳などの感覚器官、口腔・胃などの内臓器官について構造と働きを理解する。
到達目標	講義内容の6割以上を理解し、他者に説明できるようにする。
実務経験等	薬剤師として、製薬会社の研究室を経てその後、調剤薬局に勤務

授業計画

1	はじめに 年間の授業計画について 生体の構成・細胞について
2	1 人体の構造と働き 4 脳や神経系の働き 1) 中枢神経系
3	2) 末梢神経系
4	<神経組織> 1.神経細胞、2.神経線維、3.シナプス、4.神経による情報伝達、5.神経伝達物質
5	3 皮膚、骨・関節、筋肉などの運動器官 1) 外皮系
6	2) 骨格系
7	2) 骨格系,関節
8	3) 筋組織
9	2.目、鼻、耳などの感覚器官 1) 目 (a)眼球
10	(b)眼瞼、結膜、涙器、眼筋、2) 鼻 (a)鼻腔 (b)副鼻腔
11	3) 耳 (a)外耳 (b)中耳、(c)内耳
12	1.胃・腸、肝臓、肺、心臓、腎臓などの内臓器官 1) 消化器系 (a)口腔 ①歯
13	②舌 ③唾液腺 (b)咽頭、食道
14	(c)胃
15	前期試験答案返却、解説等、(d)小腸

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="radio"/> 筆記試験で評価する
	<input type="radio"/> 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	登録販売者試験受験対策共通テキスト(日本薬業研修センター) およびプリント
使用教材	
履修にあたっての注意	

科目名	人体学	開講時期	1年 後期
担当講師	野村 恵子	区分	実務
授業の方法	講義	単位数：授業時数	2 30時間

学修内容	小腸、膵臓、胆嚢、肝臓、大腸などの内臓器官、呼吸器系、循環器系、泌尿器系および内分泌系 について構造と働きを理解する。
到達目標	講義内容の6割以上を理解し、他者に説明できるようにする。
実務経験等	薬剤師として、製薬会社の研究室を経てその後、調剤薬局に勤務

授業計画

1	(d)小腸、(e)膵臓
2	(f)胆嚢、肝臓、
3	(g)大腸
4	(h)肛門 2) 呼吸器系 (a)鼻腔
5	(b)咽頭(c)喉頭、気管、気管支、(d)肺
6	3) 循環器系 (a)心臓、(b)血管系(動脈)
7	(b)血管系(静脈、毛細血管)、(c)血液 ①血漿
8	②血球(赤血球、白血球、血小板)、
9	(d)脾臓、(e)リンパ系(リンパ液、リンパ管、リンパ節)
10	4) 泌尿器系 (a)腎臓
11	副腎、ホルモン
12	(b)尿路(膀胱、尿道)
13	まとめ
14	後期試験答案返却、解説等
15	各人 器官毎に担当し説明・発表

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="radio"/> 筆記試験で評価する
	<input type="radio"/> 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	
使用教材	登録販売者試験受験対策共通テキスト(日本薬業研修センター) およびプリント
履修にあたっての注意	

科目名	薬剤学	開講時期	1年 後期
担当講師	前島 和俊	区分	実務
授業の方法	講義	単位数：授業時数	2 30時間

学修内容	受験対策共通テキスト「第2章 人体の働きと医薬品」をベースにして「薬が働く仕組み」「症状から見た主な副作用」について理論と臨床を解説し、必要な知識を習得する。
到達目標	登録販売者試験に合格するための知識習得に加え、登録販売者としての薬学的教養を涵養することを目標とする。
実務経験等	薬剤師として、総合病院に勤務

授業計画

1	講義に先立って 講義の進め方、今日の医療情勢、薬剤師と登録販売者の役割
2	医薬品の基本的知識（復習） 医薬品の定義と分類、医薬品情報、医薬品のリスク
3	薬が働く仕組み 全身作用と局所作用 薬物動態（吸収、分布、代謝、排泄）
4	薬が働く仕組み 薬物間相互作用の仕組み
5	薬が働く仕組み 用量と作用の関係（血中濃度曲線、用量反応曲線）
6	薬が働く仕組み 標的分子（受容体、酵素、チャネル、トランスポーター）
7	薬が働く仕組み 医薬品の剤形と特徴
8	症状から見た主な副作用 主作用と副作用、有害事象、アレルギー反応、薬物依存
9	症状から見た主な副作用 厚労省重篤副作用疾患別対応マニュアル【過敏症・皮膚】
10	症状から見た主な副作用 厚労省重篤副作用疾患別対応マニュアル【肝臓・内分泌・血液】
11	症状から見た主な副作用 厚労省重篤副作用疾患別対応マニュアル【精神・神経・消化器】
12	症状から見た主な副作用 厚労省重篤副作用疾患別対応マニュアル【呼吸器・循環器】
13	症状から見た主な副作用 厚労省重篤副作用疾患別対応マニュアル【腎臓・泌尿器・感覚器】
14	症状から見た主な副作用 薬の作用、副作用発現に影響する因子
15	復習と試験対策

評価方法 (どちらかに ○をつける)		筆記試験で評価する
	○	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	課題について調査・学習・議論することで、より理解を深め、客（患者）への説明能力を養う	
使用教材	登録販売者試験受験対策共通テキスト（上巻）、都道府県登録販売者過去問題集、重篤副作用疾患対応マニュアル（厚生労働省）	
履修にあたっての注意	患者から信頼される登録販売者の育成を目指した授業とするため、受け身ではなく、積極性を持った学習姿勢も評価します。	

科目名	薬物学①	開講時期	1年 前期
担当講師	小倉 由子	区分	実務
授業の方法	講義	単位数：授業時数	6 90時間

学修内容	医薬品には、処方箋によって提供される医療用医薬品と自らの責任で購入して使用する一般用医薬品があるが、医療従事者として薬に関わる上で一般医薬品の位置づけと医薬品を使用する上で知っておかなければならない①医薬品の成分や作用機序 ②効能効果 ③副作用や相互作用等に
到達目標	医薬品や漢方処方製剤などを構成している各成分の作用機序、効能・効果、注意事項及び相互作用を理解することにより医薬品全体としての薬効や使用方法などを説明できる基礎知識を身に付ける。
実務経験等	病院薬剤師として勤務

授業計画

1	精神神経に作用する薬【総論】（風邪の諸症状と風邪薬の作用・主な配合成分と漢方処方製剤）
2	精神神経に作用する薬（風邪薬の副作用・相互作用）
3	自律神経用薬（発熱と解熱の仕組み・解熱鎮痛薬の作用・主な配合成分と漢方処方製剤）
4	自律神経用薬（解熱鎮痛薬の副作用・相互作用）・問題の実施と解答・解説
5	眠気を促す薬・眠気を防ぐ薬（眠気の仕組み・主な配合成分と漢方処方製剤）
6	鎮暈薬（乗り物酔い防止薬）（乗り物酔い・めまいの仕組み・鎮暈薬の作用）
7	小児の疳（小児鎮静薬）・問題の実施と解答・解説
8	呼吸器に作用する薬（咳や痰が生じる仕組み・鎮咳去痰薬の作用・主な配合成分）
9	呼吸器に作用する薬（鎮咳去痰薬・口腔咽喉薬・うがい薬）・問題の実施と解答・解説
10	胃の薬（胃・腸の仕組み・制酸薬・健胃薬・消化薬の作用）
11	腸の薬（整腸薬・下痢の仕組みと止瀉薬の作用）
12	腸の薬（便秘の仕組みと瀉下薬の作用）・問題の実施と解答・解説
13	胃腸鎮痛鎮痙薬（痛みの仕組みと抑える作用・代表的な鎮痙成分）
14	その他の消化器用薬（浣腸薬〈注入薬・坐薬〉・駆虫薬〈回虫・蟯虫〉）
15	消化器用薬に関する諸注意（使用上の注意・販売上の注意）・問題の実施と解答・解説

評価方法 (どちらかに ○をつける)	○	筆記試験で評価する
		筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習		
使用教材	学生のための漢方医学テキスト：日本東洋医学会学術教育委員会 都道府県登録販売者過去問題集：日本薬業研修センター 都道府県登録販売者過去問題	
履修にあたっての注意		

科目名	薬物学①	開講時期	1年 後期
担当講師	小倉 由子	区分	実務
授業の方法	講義	単位数：授業時数	3 45時間

学修内容	医薬品には、処方箋によって提供される医療用医薬品と自らの責任で購入して使用する一般用医薬品があるが、医療従事者として薬に関わる上で一般医薬品の位置づけと医薬品を使用する上で知っておかなければならない①医薬品の成分や作用機序 ②効能効果 ③副作用や相互作用等に
到達目標	医薬品や漢方処方製剤などを構成している各成分の作用機序、効能・効果、注意事項及び相互作用を理解することにより医薬品全体としての薬効や使用方法などを説明できる基礎知識を身に付ける。
実務経験等	病院薬剤師として勤務

授業計画

1	心臓等の器官や血液に作用する薬（心臓の働きと動悸、息切れ等を生じる原因と病気）
2	強心薬の作用と主な生薬成分・漢方処方製剤・相互作用及び受診勧奨
3	高コレステロール改善薬（血中コレステロールと高コレステロール改善成分の作用）
4	高コレステロール改善薬（代表的な配合成分、生活習慣改善へのアドバイス・受診勧奨）
5	貧血用薬（貧血の種類と症状、鉄欠乏性貧血の鉄製剤の働き・配合成分・副作用）
6	その他の循環器用薬（代表的な配合成分・漢方処方製剤）
7	痔の薬（痔の発症と症状及び対処法、痔疾用薬〈内服薬と外用薬〉の働き、配合成分）
8	その他の泌尿器用薬（主な症状・主な代表的な配合成分・漢方処方製剤）
9	婦人薬（適応対象となる体質・症状、主な配合成分〈ホルモン成分と生薬成分〉）
10	婦人薬（主な配合成分〈漢方処方製剤〉・副作用・相互作用・受診勧奨）
11	アレルギー用薬（鼻炎用内服薬を含む）（アレルギーが起こる仕組み・アレルギー症状を抑える薬）
12	アレルギー用薬（鼻炎用点鼻薬）（病気と鼻炎症状・配合成分・相互作用）
13	眼科用薬（目の仕組みと目薬・目の症状を改善する配合成分・点眼薬の使い方と注意事項）
14	皮膚に用いる薬（殺菌消毒成分・痒み・晴れ・痛みを抑える成分）
15	皮膚に用いる薬（保湿配合成分・抗菌作用成分・頭皮・毛根に作用する配合成分）

評価方法 (どちらかに ○をつける)	○	筆記試験で評価する
		筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習		
使用教材	学生のための漢方医学テキスト：日本東洋医学会学術教育委員会 都道府県登録販売者過去問題集：日本薬業研修センター 都道府県登録販売者過去問題	
履修にあたっての注意		

科目名	薬物学②	開講時期	1年 前期
担当講師	野村 恵子	区分	実務
授業の方法	講義	単位数：授業時数	2 30時間

学修内容	漢方の特徴・基本的な考え方、代表的な漢方処方製剤、適応となる症状・体質、代表的な生薬成分、歯痛・歯槽膿漏薬および禁煙補助剤並びに滋養強壮保健薬（ビタミン成分）の主な配合成分、それら薬による主な副作用、相互作用、受診勧奨すべき状況などについて理解する。
到達目標	講義内容の6割以上を理解し、他者に説明できるようにする。
実務経験等	薬剤師として、製薬会社の研究室を経てその後、調剤薬局に勤務

授業計画

1	はじめに 年間の授業計画について ; XIV漢方処方製剤・生薬製剤 1漢方処方製剤 1) 漢方の特徴・基本的な考え方- 中医学の概要 -
2	2) 代表的な漢方処方製剤、適用となる症状・体質、主な副作用
3	3) 相互作用、受診勧奨、 2その他の生薬製剤 1) 代表的な生薬成分
4	1) 代表的な生薬成分、主な副作用 (a)~(h) 2) 相互作用、受診勧奨
5	XI歯や口中に用いる薬 1歯痛・歯槽膿漏用薬 1) 代表的な配合成分
6	2) 相互作用、受診勧奨
7	2口内炎用薬(外用薬) 1) 代表的な配合成分、主な副作用
8	XII禁煙補助剤 1) ニコチンに関する基礎知識
9	2) 主な副作用、相互作用、禁煙達成へのアドバイス・受診勧奨
10	XIII滋養強壮保健薬 1) 医薬品として扱われる保健薬 2) ビタミン、カルシウム、アミノ酸等の働き (a)ビタミン成分 ①ビタミンA ②ビタミンD
11	③ビタミンE ④ビタミンB1、ビタミンK
12	⑤ビタミンB2 ⑥ビタミンB6
13	⑦ビタミンB12
14	⑧ビタミンC
15	前期試験答案返却、解説等、 ⑨その他(ナイアシン、ビタミンB5)

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="radio"/>	筆記試験で評価する
	<input type="radio"/>	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習		
使用教材	登録販売者試験受験対策共通テキスト(日本薬業研修センター) およびプリント	
履修にあたっての注意		

科目名	薬物学②	開講時期	1年 後期
担当講師	野村 恵子	区分	実務
授業の方法	講義	単位数：授業時数	2 30時間

学修内容	滋養強壮保健薬（カルシウム成分、アミノ酸成分）、公衆衛生用薬、一般用検査薬の主な配合成分、それら薬による主な副作用、相互作用、受診勧奨すべき状況などについて理解する。
到達目標	講義内容の6割以上を理解し、他者に説明できるようにする。
実務経験等	薬剤師として、製薬会社の研究室を経てその後、調剤薬局に勤務

授業計画

1	XⅢ 滋養強壮保健薬 ⑨その他(ビオチン、葉酸)、(b)カルシウム成分
2	(c)アミノ酸成分①システイン ②アミノエチルスルホン酸 ③アスパラギン酸ナトリウム、(d)その他の成分
3	3) 代表的な配合生薬等、主な副作用 ・生薬成分(a)～(f) ・漢方処方製剤 4) 相互作用、受診勧奨
4	XⅤ 公衆衛生用薬 1) 消毒薬 1) 感染症の防止と消毒薬、2) 代表的な殺菌消毒成分、取り扱い上の注意等 (a)手指・皮膚、器具等の殺菌・消毒に使用する成分
5	(b)専ら器具、設備等の殺菌・消毒に用いられる成分、
6	2 殺虫剤・忌避剤 1) 衛生害虫の種類と防除 (a)ハエ (b)蚊、(c)ゴキブリ
7	(d)シラミ (e)トコジラミ (f)ノミ (g)イエダニ、ツツガムシ (h)屋内塵性ダニ
8	2) 代表的な配合成分・用法、誤用・事故等への対処 (a)有機リン酸系殺虫成分、(b)ピレスロイド系殺虫成分 (c)カーバメイト系殺虫成分
9	(d)有機塩素系殺虫成分 (e)昆虫成長阻害成分 (f)その他の成分 ①殺虫補助成分 ②忌避成分
10	●主な剤形、用法 (a)噴霧剤 (b)燻蒸剤 (c)毒餌剤 (d)蒸散剤 (e)粉剤・粒剤 (f)乳剤・水和剤 (g)油剤 【一般的な留意事項】
11	XⅥ 一般用検査薬 1) 尿糖・尿蛋白検査薬 1) 尿中の糖・蛋白値に異常を生じる要因
12	2) 検査結果に影響を与える要因、検査結果の判断、受診勧奨 2) 妊娠検査薬 1) 妊娠の早期発見の意義
13	2) 検査結果に影響を与える要因、検査結果の判断、受診勧奨
14	まとめ
15	後期試験答案返却、解説等、 演習問題

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="radio"/> 筆記試験で評価する
	<input type="radio"/> 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	
使用教材	登録販売者試験受験対策共通テキスト(日本薬業研修センター) およびプリント
履修にあたっての注意	

科目名	薬事法規	開講時期	1年 前期
担当講師	真砂 秀夫	区分	一般
授業の方法	講義	単位数：授業時数	1 15時間

学修内容	医薬品・医療機器等法及び関係法規制度
到達目標	医薬品等に関する法律、法令、制度を理解し、登録販売者として医薬品等の販売、授与にあたり法令を遵守する
実務経験等	

授業計画

1	医薬品・医療機器等法の目的（第一条）、登録販売者の責務
2	医薬品の定義
3	不良医薬品、不正表示医薬品
4	要指導医薬品
5	一般用医薬品、医療用医薬品
6	毒薬、劇薬、生物由来製品
7	一般用医薬品のリスク区分
8	容器・外箱等への記載事項、記載禁止事項
9	医薬部外品
10	化粧品
11	保健機能食品等の食品
12	医薬品の販売業の許可（1）許可の種類と許可行為の範囲
13	医薬品の販売業の許可（2）薬局、薬剤師不在時間
14	医薬品の販売業の許可（3）店舗販売業
15	医薬品の販売業の許可（4）配置販売業

評価方法 (どちらかに ○をつける)		筆記試験で評価する
	○	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習		
使用教材	登録販売者試験 受験対策 共通テキスト	
履修にあたっての注意		

科目名	薬事法規	開講時期	1年 後期
担当講師	真砂 秀夫	区分	一般
授業の方法	講義	単位数：授業時数	1 15時間

学修内容	医薬品・医療機器等法及び関係法規制度
到達目標	医薬品等に関する法律、法令、制度を理解し、登録販売者として医薬品等の販売、授与にあたり法令を遵守する
実務経験等	

授業計画

1	リスク区分に応じた販売従事者等
2	リスク区分に応じた情報提供（1）要指導医薬品
3	リスク区分に応じた情報提供（2）一般医薬品
4	リスク区分に応じた陳列
5	薬局又は店舗における掲示
6	特定販売
7	その他遵守事項等
8	適正な販売広告
9	医薬品等適正広告基準
10	不適正な販売方法
11	行政庁の監視指導
12	行政庁による処分（1）改善命令等
13	行政庁による処分（2）業務停止命令等
14	行政庁による処分（3）廃棄・回収命令等
15	苦情相談窓口

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="checkbox"/> 筆記試験で評価する
	<input type="radio"/> 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	
使用教材	登録販売者試験 受験対策 共通テキスト
履修にあたっての注意	

科目名	医薬品適正安全	開講時期	1年 後期
担当講師	磯野 淳一	区分	実務
授業の方法	講義	単位数：授業時数	2 30時間

学修内容	①医薬品の適正使用のために必要な基本的情報について知る ②副作用情報収集制度や評価・対応する制度を知り、副作用の報告方法を学ぶ ③副作用被害者に救済制度を紹介できるように、制度の内容や手続き方法を学ぶ ④医薬品を安全に使用するために具体的報告事例を学ぶ
到達目標	①添付文書、製品表示等について記載内容を的確に理解し、購入者に適切な情報提供や相談対応ができる ②副作用報告・被害救済制度に関する基本的知識を身につける ③副作用等に関する厚生労働大臣報告が行える ④実際に副作用被害者に被害救済制度について紹介、説明できる
実務経験等	薬剤師として、総合病院に勤務

授業計画

1	登録販売者とは I 医薬品の適正使用情報 添付文書はどこにある 一般用医薬品の添付文書 添付文書の読み方 一般用医薬品のリスク区分
2	使用上の注意 してはいけないこと 医療用医薬品の添付文書に記載されている基本用語 添付文書の読み方 相談すること その他の注意
3	添付文書の読み方 製品表示の読み方 安全性情報など、その他の情報
4	II 医薬品の安全対策 1. 医薬品の副作用情報等の収集、評価及び措置 2. 医薬品による副作用が疑われる場合の報告の仕方
5	III 医薬品の副作用等による健康被害の救済 1) 医薬品副作用被害救済制度 2) 医薬品副作用被害救済制度等への案内・窓口紹介
6	IV 一般用医薬品に関する主な安全対策 a) アンブル入りかぜ薬 b) 小柴胡湯による間質性肺炎 c) 一般用かぜ薬による間質性肺炎 d) PPA含有医薬品 V 医薬品の適正使用のための啓発活動
7	I 添付文書 「してはいけないこと」「相談すること」
8	I 添付文書 「してはいけないこと」 ピリン系の薬剤とは 止瀉剤一覧・作用機序
9	I 添付文書 「してはいけないこと」 外用鎮痛消炎剤 特に湿布薬について メトヘモグロ ビン血症に関連して
10	I 添付文書 「してはいけないこと」 基礎疾患との組み合わせ 成分、牛乳によるアレルギー に関連して
11	I 添付文書 「してはいけないこと」 授乳中に避ける理由について 妊娠中に避けるべき理由 について
12	I 添付文書 「してはいけないこと」 15歳未満に使用できない理由に関連して 乗物、機 械の運転を避けるべき医薬品について
13	I 添付文書 「してはいけないこと」 出産予定12週以内の妊婦に避ける医薬品に関連して
14	I 添付文書 「してはいけないこと」 相談に対する登録販売者の適切な説明に関して
15	第5章 医薬品の適正使用・安全対策 の振り返り

評価方法 (どちらかに ○をつける)		筆記試験で評価する
	○	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習		
使用教材		登録販売者試験 受験対策 共通テキスト [改訂版] 上巻
履修にあたっての注意		

科目名	医薬品論	開講時期	2年 後期
担当講師	野村 恵子	区分	一般
授業の方法	講義	単位数：授業時数	2 30時間

学修内容	微生物および抗菌薬・抗ウイルス薬の種類と作用機序について理解する。頭痛を伴う病気、高血圧を伴う病気の症状と病態・治療方法について各々理解する。
到達目標	講義内容の6割以上を理解し、他者に説明できるようにする。
実務経験等	

授業計画

1	微生物について、 抗菌薬（1.細胞壁合成阻害薬 1-1.βラクタム系薬 1）ペニシリン系、 2）セフェム系、3）カバペナム系、4）モノバクタム系、1-2.グリコペプチド系薬、1-3.ホスホマイシン）
2	抗菌薬（2.蛋白合成阻害薬 2-1.アミノグリコチド系薬、2-2.マクロライド系、2-3.テトラサイクリン系、 2-4.リンコマイシン系、2-5.ストレプトグラミン系、2-6.グリザリジノン系薬、2-7.クロラムフェニコール系）
3	抗菌薬（3.DNA・RNA合成阻害薬 3-1.キノロン系薬、3-2.カルバマゼピル、3-3.S-T合剤）
4	抗菌薬（4.細胞膜障害薬 4-1.ポリヘキサリン系薬、4-2.タフトマイシン）、抗ウイルス薬、 抗真菌薬、薬物間相互作用
5	抗菌薬と食品の相互作用、処方比較（抗菌薬）、医薬品選択のポイント
6	症状と病態（頭痛を伴う病気）
7	症状と病態（頭痛を伴う病気）
8	症状と病態（頭痛を伴う病気）
9	症状と病態（頭痛を伴う病気）
10	症状と病態（頭痛を伴う病気）
11	症状と病態（高血圧を伴う病気）
12	症状と病態（高血圧を伴う病気）
13	症状と病態（高血圧を伴う病気）
14	いままでの復習
15	後期試験答案返却、解説等

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="radio"/>	筆記試験で評価する
	<input type="radio"/>	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習		
使用教材	「家庭の医学」第3版（成美堂出版）、プリント	
履修にあたっての注意		

科目名	医薬品販売論	開講時期	2年 後期
担当講師	疊 亮平	区分	一般
授業の方法	講義	単位数：授業時数	2 30時間

学修内容	一般用医薬品の販売接客事例などから、症状別に販売接客方法を学習する。また、医薬品以外からの対応や受診勧奨の必要性なども併せて学習する。
到達目標	登録販売者として現場に立ったとき、お客様に適切な対応ができるように自信をつける。また、必要に応じて複数の対応方法を提案できる登録販売者を目指す。
実務経験等	

授業計画

1	医薬品販売の基礎 挨拶 表情 声掛けのタイミング 声掛けの有無
2	医薬品販売の基礎 医薬品接客において必要な質問
3	風邪の諸症状 総合感冒薬の配合成分と接客シミュレーション
4	発熱、頭痛、のどの痛み 生理痛 解熱鎮痛薬の配合成分と接客シミュレーション
5	鼻炎薬、鎮咳去痰薬の配合成分と接客シミュレーション
6	花粉症対策 抗アレルギー薬の配合成分と接客シミュレーション
7	販売頻度が高めの漢方薬 葛根湯、小青竜湯、半夏厚朴湯など
8	胃腸薬 制酸剤、胃粘膜保護剤、消化剤、総合胃腸薬、漢方薬
9	胃腸薬 下痢、便秘への対応について 止瀉薬、便秘薬、整腸薬、その他
10	外用薬 皮膚のかゆみ、発疹、日焼け、水虫 ステロイド、ノンステロイド
11	外用薬 肩こり、筋肉痛、急性の炎症、慢性の炎症 消炎鎮痛剤
12	目薬 正しい使用方法 配合成分と注意すること
13	子どもに多い不調について 女性に多い不調について
14	乳児、高齢者の不調について ビタミン剤、漢方薬 等
15	接客ロールプレイング グループワーク

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="radio"/>	筆記試験で評価する
	<input type="radio"/>	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習		
使用教材	登録販売者テキスト上下巻 配布資料	
履修にあたっての注意		

科目名	試験対策ゼミ	開講時期	2年 前期
担当講師	齋藤 絵美	区分	一般
授業の方法	講義	単位数：授業時数	16 240時間

学修内容	登録販売者試験の過去問題の演習。傾向と対策、問題の解説。
到達目標	登録販売者試験の合格を目標とする。
実務経験等	

授業計画

1	シラバス説明/登録販売者試験について/模擬問題
2	公衆衛生用薬（各成分の用途・特性について）
3	皮膚に用いる薬（各成分の用途・特性について）
4	内服アレルギー用薬（各成分の用途・特性について/用法用量）
5	内服アレルギー用薬（各成分の用途・特性について/用法用量）
6	鼻に用いる薬（各成分の用途・特性について）
7	眼科用薬（各成分の用途・特性について）
8	歯や口中に用いる薬（各成分の用途・特性について）
9	禁煙補助剤（各成分の用途・特性について）
10	滋養強壮保健薬（各成分の用途・特性について）
11	漢方処方製剤（各成分の用途・特性について）
12	漢方処方製剤（各成分の用途・特性について）
13	婦人薬（各成分の用途・特性について）
14	頻出問題
15	頻出問題

評価方法 (どちらかに ○をつける)		筆記試験で評価する
	○	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	不正解の問題を復習をする。	
使用教材	過去問題プリント/登録販売者試験 受験対策共通テキスト 上巻・下巻	
履修にあたっての注意	欠席をした場合は、講義内容の確認し指導を仰ぐ。	

科目名	漢方概論	開講時期	2年 前期
担当講師	小倉 由子	区分	実務
授業の方法	講義	単位数：授業時数	2 30時間

学修内容	漢方医学の歴史、日本への漢方伝来と経過（平安時代～現代、漢方の復興について）漢方医学の基礎概念（陰陽、虚実、表裏、寒熱、気血水、六病位、五臓）、漢方の診察法（望診、聞診、問診、切診）、漢方医学の診断（証）について基礎知識を修得する。また、代表的な漢方薬の特徴
到達目標	一般用医薬品で使用されている漢方処方製剤や生薬について理解するため、漢方医学の考え方や代表的な漢方処方製剤の適応について基礎知識を修得する。また患者のニーズに即した漢方処方製剤を説明、紹介する上での知識を身に付けることも目的とする。
実務経験等	病院薬剤師として勤務

授業計画

1	漢方と西洋医学との違い・漢方医学の歴史（中国） 中国三大古典「黄帝内経」、「神農本草経」、「傷寒論」、「金匱要略」説明
2	漢方医学の歴史、日本への漢方伝来と経過（平安時代～現代、漢方の復興について）
3	漢方の基本構造（a)気思想 b)陰陽論 c)漢方方剤の性格）証の概念
4	病態と治療（陰陽の概念、虚実の概念、寒熱の概念、表裏の概念）
5	病態と治療（六病位の概念と各病期の説明、気血水の概念、各証に於ける生薬と漢方方剤）
6	病態と治療（五臓の概念：五行説から見た生命活動と五臓の働き、自然界の基本要素(五行)）
7	病態と治療（人間の生命活動と五臓の働き・五臓の病態と治療の実際）
8	漢方の診察法（望診・聞診の各論） 全体的な観察、爪、皮膚、声、呼吸音、咳嗽、色、臭い
9	漢方の診察法（問診・切診の各論） 病歴の聞き取り、脈診、腹診
10	薬物学（主な漢方方剤群Ⅰ） 組み合わせによる作用の変化
11	薬物学（主な漢方方剤群Ⅱ） 組み合わせによる作用の変化
12	漢方方剤の薬理作用（代表的な生薬と副作用・漢方方剤と主な副作用、相互作用）
13	服薬指導（漢方薬の剤形、服用時間、服用期間、年齢と服用量、保管の注意、その他）
14	臨床応用：よく使われている漢方方剤の作用と効果
15	臨床応用：急性の病気・慢性の病気に使われている漢方方剤の作用と効果

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="checkbox"/> 筆記試験で評価する
	<input type="radio"/> 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	
使用教材	基礎からわかる最新漢方薬入門：技術評論社 基礎からの漢方薬：薬事日報社
履修にあたっての注意	

科目名	人間栄養学	開講時期	1年 前期
担当講師	宮田 祥子	区分	一般
授業の方法	講義	単位数：授業時数	1 15時間

学修内容	糖質・脂質・たんぱく質・ビタミン・ミネラル・水の構造と働きについて理解し、栄養と健康の関わりについて学ぶ。日本人の食事摂取基準(2020年版)を理解する
到達目標	各栄養素の構造と機能・栄養と健康の関わりについて説明できる。日本人の食事摂取基準(2020年版)を説明できる。
実務経験等	

授業計画

1	栄養学概説
2	栄養素の機能 糖質
3	栄養素の機能 脂質
4	栄養素の機能 たんぱく質
5	栄養素の機能 ビタミン
6	栄養素の機能 ミネラル
7	栄養素の機能 水
8	日本人の食事摂取基準とは
9	日本人の食事摂取基準総論 概念
10	日本人の食事摂取基準総論 指標
11	日本人の食事摂取基準活用
12	日本人の食事摂取基準各論 エネルギー・エネルギー産生栄養素バランス
13	日本人の食事摂取基準各論 たんぱく質・脂質・炭水化物
14	日本人の食事摂取基準各論 ビタミン・ミネラル
15	日本人の食事摂取基準各論 ライフステージ別の活用

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="radio"/>	筆記試験で評価する
	<input type="radio"/>	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習		
使用教材	第一出版 NR・サプリメントアドバイザー 第4版	
履修にあたっての注意		

科目名	生理学	開講時期	1年 後期
担当講師	宮田 祥子	区分	一般
授業の方法	講義	単位数：授業時数	1 15時間

学修内容	身体の構造と機能、消化・吸収、自律神経とストレス、内分泌、ホルモンの作用を理解する。
到達目標	身体の構造と機能、消化・吸収、自律神経とストレス、内分泌、ホルモンの作用を説明できる。
実務経験等	

授業計画

1	身体の構造
2	身体の器官の機能
3	加齢に伴う器官系の機能の変化
4	消化器系の構造
5	管腔内消化
6	膜消化・吸収
7	栄養素別の消化・吸収 糖質
8	栄養素別の消化・吸収 たんぱく質
9	栄養素別の消化・吸収 脂質
10	栄養素別の消化・吸収 ビタミン・ミネラル
11	自律神経とストレス 自律神経
12	自律神経とストレス ストレス
13	内分泌
14	ホルモンの構造と作用機序
15	ホルモンの分泌調節機構

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="radio"/>	筆記試験で評価する
	<input type="radio"/>	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習		
使用教材	第一出版 NR・サプリメントアドバイザー 第4版	
履修にあたっての注意		

科目名	食品衛生学	開講時期	1年 後期
担当講師	狩野 こそ恵	区分	一般
授業の方法	講義	単位数：授業時数	1 15時間

学修内容	食品などの安全性や衛生管理について学ぶ
到達目標	食品などの安全性や衛生管理に関する知識を身につける
実務経験等	

授業計画

1	食品の安全とは
2	食品のリスク分析
3	リスク評価
4	リスク管理、リスクコミュニケーション
5	衛生管理
6	適正製造規範（GMP）、トレーサビリティ
7	遺伝子組み換え食品
8	添加物①
9	添加物②
10	添加物③
11	健康食品
12	保健機能食品
13	食薬の区分、医薬品かどうかの基準
14	健康食品と添加物、ハーブ
15	健康食品のリスクコミュニケーション

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="radio"/>	筆記試験で評価する
	<input type="radio"/>	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習		
使用教材	NR・サプリメントアドバイザー（第一出版）	
履修にあたっての注意		

科目名	健康食品学	開講時期	1年 前期
担当講師	狩野 こそ恵	区分	一般
授業の方法	講義	単位数：授業時数	1 15時間

学修内容	食品などの安全性や衛生管理について学ぶ。健康食品の制度や表示について学ぶ。
到達目標	食品などの安全性や衛生管理について理解する。保健機能食品、特別用途食品、いわゆる健康食品の違いについて理解する。
実務経験等	

授業計画

1	食品の安全とは
2	食品のリスク分析
3	衛生管理
4	食品の安全性確保
5	遺伝子組み換え食品
6	食品添加物
7	健康食品のリスクコミュニケーション
8	健康食品の全体像
9	特定保健用食品の概要
10	特定保健用食品の利用法
11	栄養機能食品の概要
12	栄養機能食品の表示
13	機能性表示食品
14	特別用途食品
15	いわゆる健康食品

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="radio"/>	筆記試験で評価する
	<input type="radio"/>	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習		
使用教材	NR ・ サ プ リ メ ン ト ア ド バ イ ザ ー (第 一 出 版)	
履修にあたっての注意		

科目名	健康食品学	開講時期	2年 後期
担当講師	狩野 こそ恵	区分	一般
授業の方法	講義	単位数：授業時数	1 15時間

学修内容	食材の種類や特徴について学ぶ。食品の表示や保健機能食品について学ぶ。
到達目標	保健機能食品について理解する。
実務経験等	

授業計画

1	果実（準仁果類・液果類）について
2	果実（仁果類・核果類）について
3	牛乳について
4	乳製品について
5	野菜（緑黄色野菜）について
6	野菜（淡色野菜）について
7	保健機能食品（特定保健用食品）について
8	保健機能食品（機能性表示食品）について
9	保健機能食品（栄養機能食品）について
10	特別用途食品について
11	栄養強調表示について
12	食品の表示(フェニルアラニン・遺伝子組み換え食品表示) について
13	食品の表示(アレルギー・食品添加物・期限表示) について
14	食中毒とその予防（手洗い）について
15	糖質について

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="radio"/>	筆記試験で評価する
	<input type="radio"/>	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習		
使用教材	食べ物と健康Ⅱ（化学同人） 新ビジュアル食品成分表（大修館書店）	
履修にあたっての注意		

科目名	栄養法規	開講時期	1年 後期
担当講師	齋藤 絵美	区分	一般
授業の方法	講義	単位数：授業時数	1 15時間

学修内容	NRサプリメントアドバイザーの役割を理解し、食品・医薬品に関する法律について学習する。
到達目標	栄養機能の科学的根拠を学んだうえで、消費者に対し適切な情報提供を行えることを目標とする。
実務経験等	

授業計画

1	食品の健康表示と安全性のための法律
2	健康増進法について
3	健康増進法について
4	食品衛生法について
5	食品衛生法について
6	食品安全基本法について
7	食品安全基本法について
8	医薬品医療機器法
9	景品表示法
10	JAS法
11	食品表示法
12	食品表示法
13	海外での関連法規（コーデックス・EU）
14	海外での関連法規（アメリカ合衆国・アジア）
15	今後の改正について

評価方法 (どちらかに ○をつける)		筆記試験で評価する
	○	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	日常生活においても、医薬品や健康に関する情報に関心を持つ。	
使用教材	NR・サプリメントアドバイザー 第4巻	
履修にあたっての注意	欠席をした場合は、講義内容の確認し指導を仰ぐ。	

科目名	生活習慣病概論	開講時期	2年 前期
担当講師	茂木 健	区分	一般
授業の方法	講義	単位数：授業時数	1 15時間

学修内容	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人の健康の状況、生活習慣病の概要を学ぶ。 ・主な生活習慣病の病態を学ぶ。 ・生活習慣の健康への影響を学ぶ。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人の健康の現状を説明できる。 ・主な生活習慣病を挙げることができ、その病態、原因を理解している。 ・喫煙 飲酒 ストレスなどの生活習慣の指導ができる
実務経験等	

授業計画

1	生活習慣病とは
2	寿命と人口構成の変化
3	食生活や生活環境の変化
4	疾病構造の変化
5	疾病の発症における遺伝的要因と環境要因
6	生活習慣病の概念と特定健康診査・特定保健指導
7	生活習慣病 各論（肥満、メタボリックシンドローム）
8	生活習慣病 各論（脂質異常症、動脈硬化、高尿酸血症）
9	生活習慣病 各論（高血圧症）
10	生活習慣病 各論（糖尿病）
11	生活習慣病 各論（CKD）
12	生活習慣病 各論（COPD）
13	生活習慣病 各論（がん、認知症）
14	タバコとアルコールの健康影響
15	生活習慣と疾患（睡眠、ストレス、紫外線、口腔ケア）

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="radio"/> 筆記試験で評価する
	<input type="radio"/> 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	
使用教材	NR・サプリメントアドバイザー-必携 第4版 第一出版
履修にあたっての注意	

科目名	臨床栄養学	開講時期	2年 後期
担当講師	茂木 健	区分	一般
授業の方法	講義	単位数：授業時数	1 15時間

学修内容	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床栄養学の基礎を学び、栄養状態の評価、栄養摂取量の設定を行う。 ・ライフステージ別に栄養、身体活動を学ぶ。 ・主な生活習慣病の病態とその栄養について学ぶ。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・一日のエネルギー摂取量の設定ができる。 ・各疾患の栄養管理の基本を理解している。食品交換表を使用できる。 ・臨床検査の意義を理解し、その基準値と疾患の関連がわかる。
実務経験等	

授業計画

1	栄養アセスメントと栄養療法
2	エネルギー設定と栄養素配分
3	栄養投与経路
4	ライフステージと栄養(小児期、妊娠期、高齢期)
5	疾病予防と健康寿命
6	かんの予防
7	アンチエイジング、長寿医学
8	病態栄養 各論(肥満症、糖尿病、動脈硬化症、高血圧症、腎疾患)
9	病態栄養 各論(慢性閉塞性肺疾患、肝疾患、炎症性腸症候群、がん)
10	糖尿病治療のための食品交換表
11	医療施設で用いられる臨床検査
12	身体活動と栄養
13	生活習慣病の予防と治療における運動療法
14	ライフステージと身体活動
15	スポーツ医学と栄養

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="radio"/> 筆記試験で評価する
	<input type="radio"/> 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	
使用教材	NR・サプリメントアドバイザー-必携 第4版 第一出版
履修にあたっての注意	

科目名	臨床薬理学	開講時期	2年 後期
担当講師	齋藤 絵美	区分	一般
授業の方法	講義	単位数：授業時数	1 15時間

学修内容	医薬品を正しく理解し、体内での働きや食品やサプリメントとの相互作用について知る。
到達目標	サプリメントを取り扱う際、医薬品との併用・相互作用などのリスクを消費者に情報提供できる。
実務経験等	

授業計画

1	医薬品の定義
2	医薬品のプロセスと分類
3	医薬品の作用機序
4	受容体
5	イオンチャネル
6	酵素
7	副作用について
8	医薬品の代謝・吸収
9	医薬品の分布・排泄
10	医薬品の経路
11	医薬品の剤形
12	医薬品の相互作用（吸収・代謝）
13	医薬品の相互作用（分布・排泄）
14	食品と医薬品の相互作用
15	食品と医薬品の相互作用

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="checkbox"/>	筆記試験で評価する
	<input type="radio"/>	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	日常生活においても、健康に関する情報に関心を持つ。	
使用教材	NR・サプリメントアドバイザー 第4巻	
履修にあたっての注意	欠席をした場合は、講義内容の確認し指導を仰ぐ。	

科目名	食品機能概論	開講時期	1年 前期
担当講師	齋藤 絵美	区分	一般
授業の方法	講義	単位数：授業時数	1 15時間

学修内容	NRサプリメントアドバイザーの役割を理解し、食品に含まれる栄養機能について学習する。
到達目標	栄養機能の科学的根拠を学んだうえで、消費者に対し適切な情報提供を行えることを目標とする。
実務経験等	

授業計画

1	NRサプリメントアドバイザーとは
2	アドバイザースタッフの役割
3	食品機能の科学的根拠（動物・ヒト試験）
4	保健機能食品の科学的根拠 おなかの調子を整える食品
5	おなかの調子を整える食品
6	高コレステロール・高血圧適する食品
7	ミネラル・骨・歯に関する食品
8	血糖値に関する食品
9	血中中性脂肪・体脂肪に関する食品
10	食品のリスク
11	特定保健用食品の安全性
12	食経験からみた安全性
13	動物・ヒト試験における安全性
14	関与成分における安全性
15	食品の安全性・有効性に関する情報

評価方法 (どちらかに ○をつける)		筆記試験で評価する
	○	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	日常生活においても、健康に関する情報に関心を持つ。	
使用教材	NR・サプリメントアドバイザー 第4巻	
履修にあたっての注意	欠席をした場合は、講義内容の確認し指導を仰ぐ。	

科目名	行動科学論	開講時期	2年 前期
担当講師	宮田 祥子	区分	一般
授業の方法	講義	単位数：授業時数	1 15時間

学修内容	行動科学の立場から現代学習理論の原理を理解し、行動療法に結び付ける方法と行動変容について学ぶ。
到達目標	行動科学の立場から現代学習理論の原理を理解し、行動療法に結び付け、行動変容につながるカウンセリングができるようになる。
実務経験等	

授業計画

1	行動科学と現代心理学
2	行動科学と学習理論 学習理論
3	行動科学と学習理論 古典的条件付け
4	行動科学と学習理論 道具的条件付け
5	行動科学と学習理論 条件付けにおける強化と消去
6	行動科学と学習理論 行動変容
7	行動科学と行動療法
8	認知行動療法
9	保健指導を支える心理学の理論 理論横断モデル
10	保健指導を支える心理学の理論 健康信念モデル
11	行動変容と心理学的技法
12	カウンセリングの方法
13	認知行動療法の生活習慣病へのアプローチ
14	カウンセリング技法によるアプローチ
15	認知行動療法の応用による心疾患へのアプローチ

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="radio"/> 筆記試験で評価する
	<input type="radio"/> 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	
使用教材	第一出版 NR・サプリメントアドバイザー 第4版
履修にあたっての注意	

科目名	NR対策ゼミ	開講時期	2年 前期
担当講師	齋藤 絵美	区分	一般
授業の方法	講義	単位数：授業時数	2 30時間

学修内容	NR・サプリメントアドバイザー通信講座の閲覧。 各章の対策問題を解説。
到達目標	NR・サプリメントアドバイザー試験の合格。
実務経験等	

授業計画

1	オリエンテーション・復習・開講にあたって配信講座
2	NRサプリメントアドバイザーの役割と倫理（配信講座/問題）
3	基礎の生理学（配信講座/問題）
4	基礎の生理学（配信講座/問題）
5	基礎の生化学（配信講座/問題）
6	基礎の生化学（配信講座/問題）
7	人間栄養学（配信講座/問題）
8	人間栄養学（配信講座/問題）
9	生活習慣病概論（配信講座/問題）
10	生活習慣病概論（配信講座/問題）
11	臨床栄養（配信講座/問題）
12	臨床検査と身体活動と栄養（配信講座/問題）
13	臨床検査と身体活動と栄養（配信講座/問題）
14	食品安全衛生学（配信講座/問題）
15	食品安全衛生学（配信講座/問題）

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="checkbox"/>	筆記試験で評価する
	<input type="radio"/>	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	認定試験を意識し、各自配信講座を繰り返し閲覧する。	
使用教材	NR・サプリメントアドバイザー 第4巻	
履修にあたっての注意	欠席をした場合は、講義内容の確認し指導を仰ぐ。	

科目名	NR対策ゼミ	開講時期	2年 後期
担当講師	齋藤 絵美	区分	一般
授業の方法	講義	単位数：授業時数	4 60時間

学修内容	NR・サプリメントアドバイザー通信講座の閲覧。 各章の対策問題を解説。
到達目標	NR・サプリメントアドバイザー試験の合格。
実務経験等	

授業計画

1	健康食品（通信講座/問題）
2	臨床薬理学（通信講座/問題）
3	食品機能の科学的根拠（通信講座/問題）
4	行動とカウンセリング（通信講座/問題）
5	認定試験対策問題：生理学
6	認定試験対策問題：生化学
7	認定試験対策問題：人間栄養学
8	認定試験対策問題：生活習慣病概論と臨床栄養
9	認定試験対策問題：臨床検査と身体活動と栄養
10	認定試験対策問題：食品安全衛生学
11	認定試験対策問題：健康食品
12	認定試験対策問題：臨床薬理学
13	認定試験対策問題：食品機能の科学的根拠
14	認定試験対策問題：行動科学とカウンセリング
15	認定試験対策問題：国内外の関連法規

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="radio"/> 筆記試験で評価する
	<input type="radio"/> 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習	認定試験を意識し、各自配信講座を繰り返し閲覧する。
使用教材	NR・サプリメントアドバイザー 第4巻
履修にあたっての注意	欠席をした場合は、講義内容の確認し指導を仰ぐ。

科目名	医療事務	開講時期	1年 前期
担当講師	壘 亮平	区分	一般
授業の方法	講義	単位数：授業時数	3 45時間

学修内容	医療機関の概要・医療保険のしくみ、その他の関連制度 薬局の基礎知識、調剤報酬算定方法、レセプト作成方法
到達目標	医療機関の概要・医療保険のしくみ、その他の関連制度、薬局の基礎知識についての知識を習得する。また、調剤報酬の算定方法を理解し、レセプト作成ができる。
実務経験等	

授業計画

1	医療機関と薬局（医療機関、薬局の役割や関係について）
2	医療保障制度（医療保障制度の体系、医療保険制度と種類）
3	保険給付（保険給付の範囲と種類、給付割合と患者負担、高額療養費）
4	調剤薬局での事務の仕事（日常業務、請求事務）医療事務スタッフの心構え
5	公費負担医療（制度と概要、その他助成制度、レセプトの記載）
6	労災保険、介護保険 医療事務制度の理解度チェック
7	薬局の基礎知識、調剤報酬算定にあたって（処方せんの基礎知識）
8	薬剤の基礎知識、算定の基礎（記載内容、区分、投与量、服用使用方法）
9	算定のあたっての基礎知識（受付回数、1剤、1調剤についての理解）
10	調剤報酬の算定 調剤基本料 薬剤料 電卓のコツ
11	調剤料の算定（内服薬、内服用滴剤、屯服薬、外用薬、注射薬）
12	調剤料の加算について①
13	調剤料の加算について②
14	薬学管理料について 調剤報酬算定のまとめ
15	薬の基礎知識、医療事務員の接遇マナー

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="radio"/>	筆記試験で評価する
	<input type="radio"/>	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習		
使用教材	調剤薬局事務講座テキスト	
履修にあたっての注意		

科目名	医療事務	開講時期	1年 後期
担当講師	壘 亮平	区分	一般
授業の方法	講義	単位数：授業時数	2 30時間

学修内容	調剤報酬算定のまとめ、レセプト作成、点検、学科問題、資格試験対策
到達目標	調剤報酬算定など、調剤事務管理士に必要な知識を習得し、調剤事務管理士試験合格を目標とする。
実務経験等	

授業計画

1	レセプトの作成 レセプトの基礎知識 記入方法 点検
2	薬価基準表 レセプト作成練習問題 解説
3	レセプト作成練習問題 解答解説
4	レセプト点検問題の解き方
5	レセプト点検問題の練習 解答解説
6	学科問題の解き方 テキストからの検索
7	学科問題の練習 解答解説
8	レセプト作成 処方せん1枚の場合
9	レセプト作成 処方せん2枚受付の場合
10	調剤試験問題① レセプト点検、レセプト作成、学科問題
11	調剤試験問題② レセプト点検、レセプト作成、学科問題
12	調剤試験問題③ レセプト点検、レセプト作成、学科問題
13	調剤試験問題④ レセプト点検、レセプト作成、学科問題
14	調剤試験問題⑤ レセプト点検、レセプト作成、学科問題
15	医療事務員の受付接客について 日本の医療費について

評価方法 (どちらかに ○をつける)	<input type="radio"/>	筆記試験で評価する
	<input type="radio"/>	筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する
授業時間外の学習		
使用教材	調剤薬局事務講座テキスト	
履修にあたっての注意		